

◆ ◆ ◆ 平成 30 年度 調査結果の概要 ◆ ◆ ◆

全体

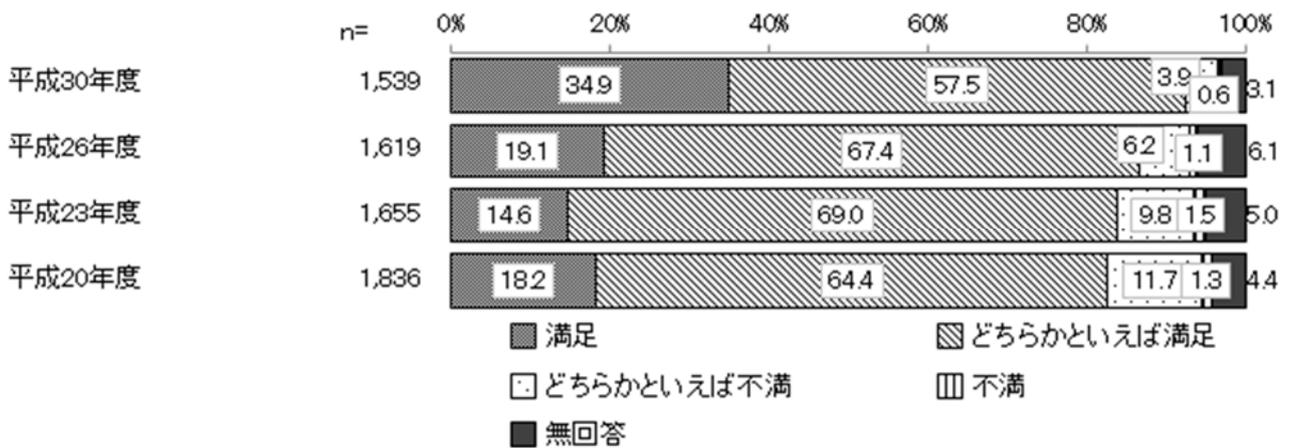
***** 水道事業についての満足度*****

家事用、業務用ともに前回の調査結果より満足度が上昇

<家事用>

■ 水道事業についての満足度（単一選択）

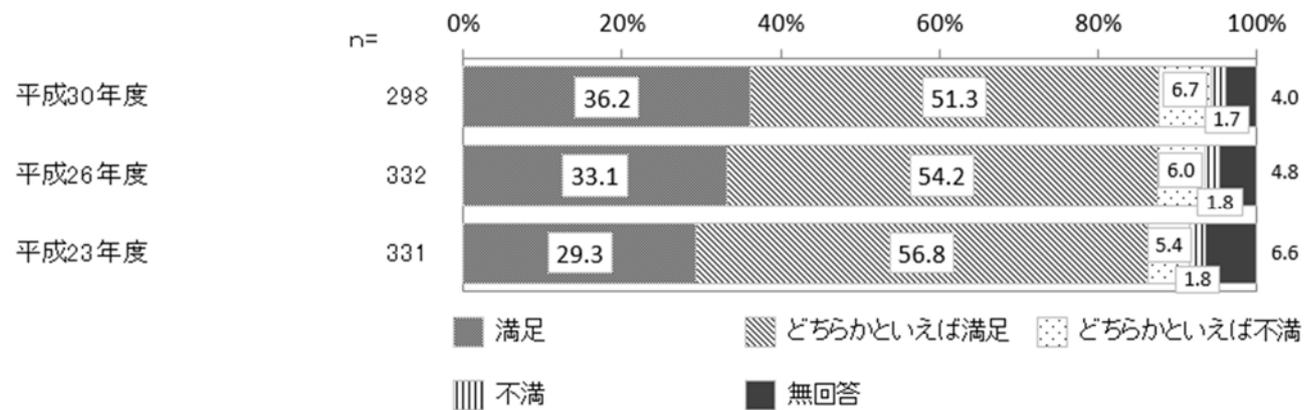
家事用では、「満足」（34.9%）、「どちらかといえば満足」（57.5%）をあわせると、92.4%の方が水道事業に満足しています（前回結果より 5.9 ポイント増加）。



<業務用>

■ 水道事業についての満足度（単一選択）

業務用では、「満足」（36.2%）、「どちらかといえば満足」（51.3%）をあわせると、87.5%の方が水道事業に満足しています（前回結果より 0.2 ポイント増加）。

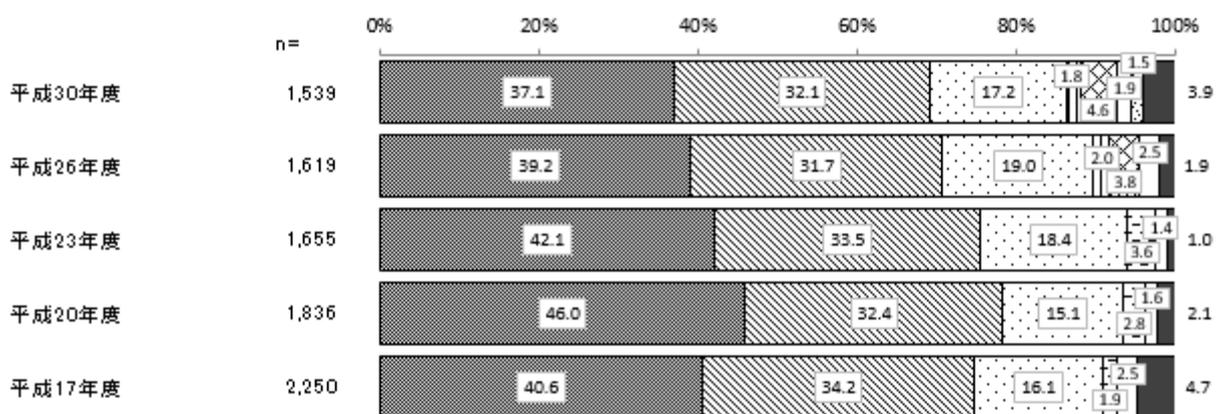


***** 飲用水としての水道に関する質問*****

(1) 69.2%の人が、「水道水を飲む」と回答

■ 主に飲んでいる水について（単一選択）

飲んでいる水の種類について、「浄水器をとさずに水道水をそのまま飲む」(37.1%)、「浄水器をとした水を飲む」(32.1%)をあわせた「水道水を飲む」と回答した割合は69.2%（前回結果より1.7ポイント減少）でした。一方、「市販されているペットボトル水を飲む」(17.2%)、「スーパーマーケットなどにある持ち帰りの水を飲む」(1.8%)、「ウォーターサーバーの水を飲む」(4.6%)、「ペットボトル以外の市販の水を飲む」(1.9%)をあわせた「市販されている水を飲む」と回答した割合は25.5%（前回結果より0.7ポイント増加）でした。

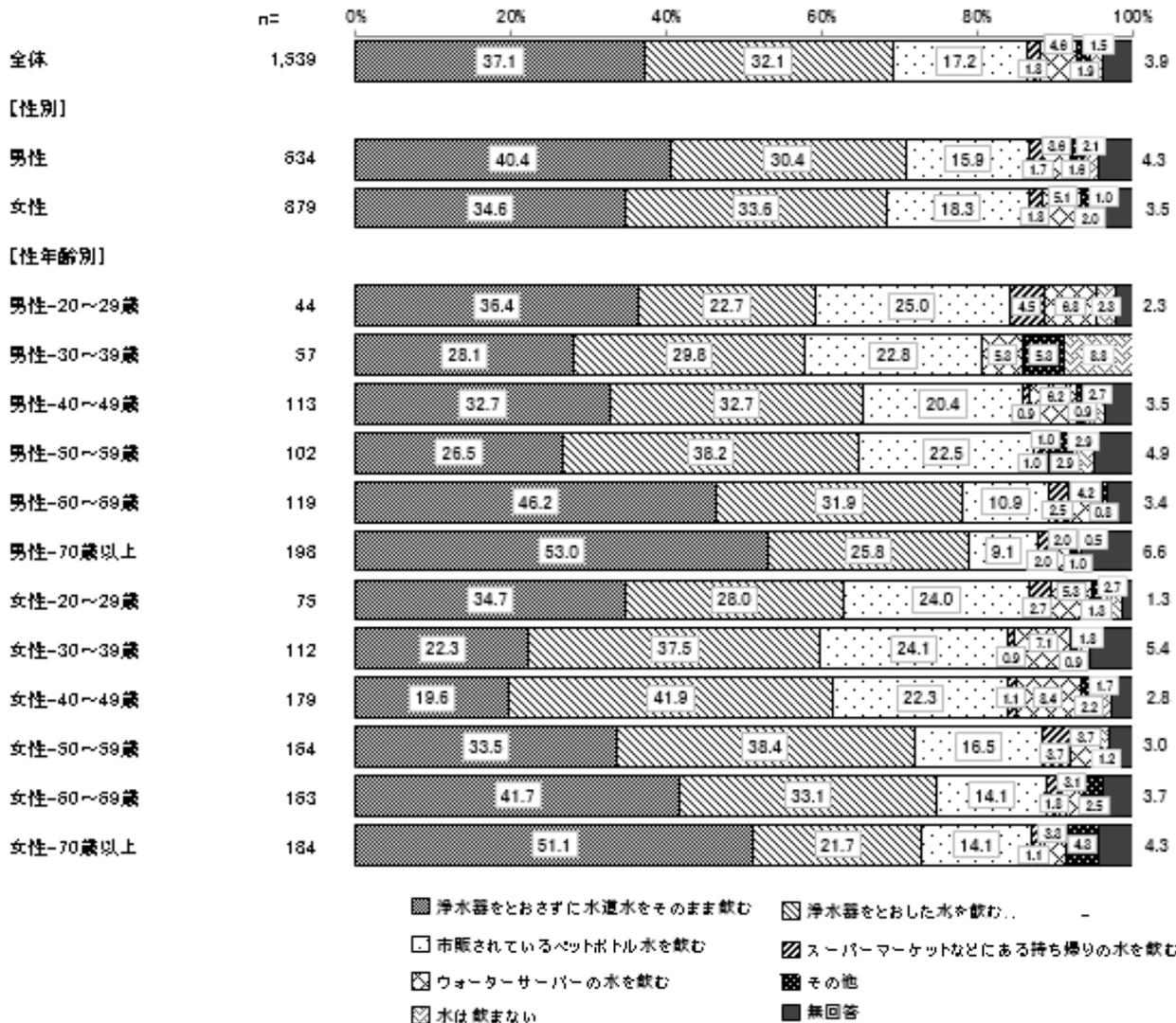


- 浄水器をとさずに水道水をそのまま飲む(冷やして、または沸かして飲む場合を含む)※
- ▨ 浄水器をとした水を飲む
- ▤ 市販されているペットボトル水を飲む
- ▧ スーパーマーケットなどにある持ち帰りの水を飲む
- ⊠ ウォーターサーバーの水を飲む
- ▣ ペットボトル以外の市販の水を飲む※
- その他
- ▩ 水は飲まない※
- 無回答

※今回の調査から選択項目を一部変更しております。

性・年齢別にみると、「浄水器をとおさずに水道水をそのまま飲む」は男女とも60歳以上の年齢で4割以上と高い傾向があり、「浄水器をとおした水を飲む」は30歳から69歳の層で高い傾向があります。一方、「市販されているペットボトル水を飲む」、「ウォーターサーバーの水を飲む」は男女ともに年齢層が下がるほど増加する傾向がみられます。「水は飲まない」は30歳代男性が8.8%と他よりも高くなっています。

なお、性別・年齢に無回答があったため、男性と女性の合計は全体とは一致しません。



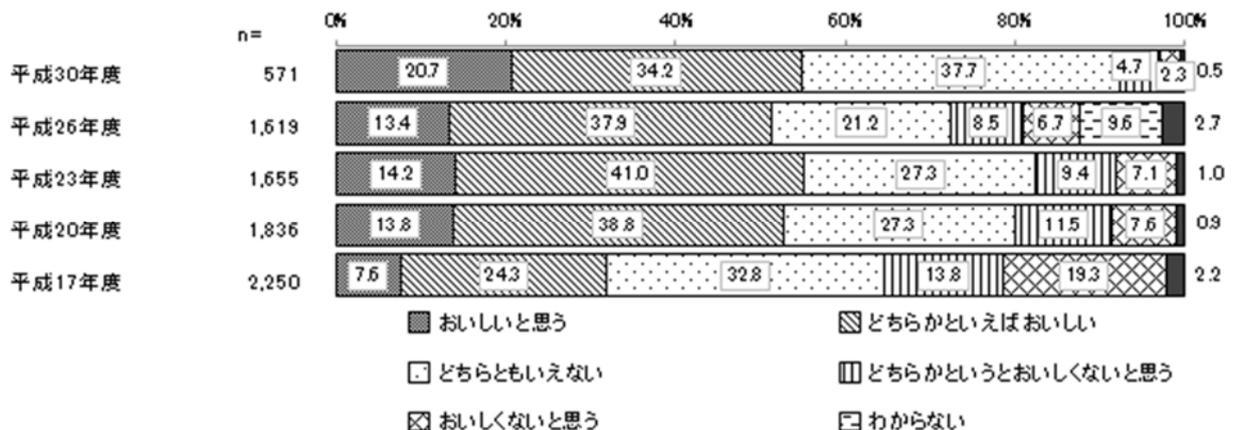
Z

(2) 54.9%の人が、「水道水をおいしい」と回答

■ 水道水のおいしさについて（単一選択）

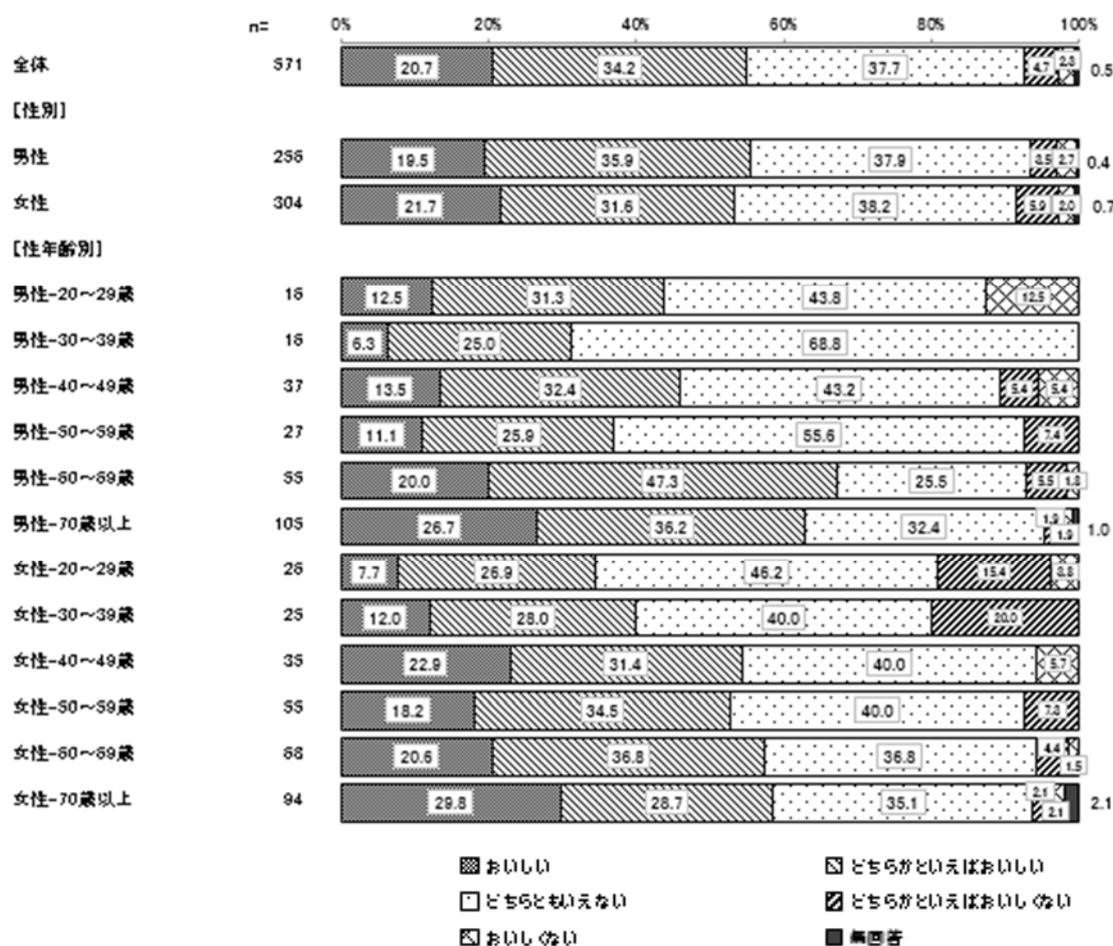
「おいしいと思う」（20.7%）、「まあまあおいしいと思う」（34.2%）をあわせた「水道水をおいしい」と感じている割合は、54.9%（前回結果より3.6ポイント増加）でした。

※平成30年度の調査から、「水道水のおいしさ」については、水を飲んでいると回答した人のみを対象としているので、回答数が大きく変化しています。



性・年齢別では、水道水をおいしいと感じている割合が最も高かったのは「男性 60～69 歳」(67.3%)で、一方、水道水をおいしいと感じている割合が最も低かったのは「男性 30～39 歳」(31.3%)でした。

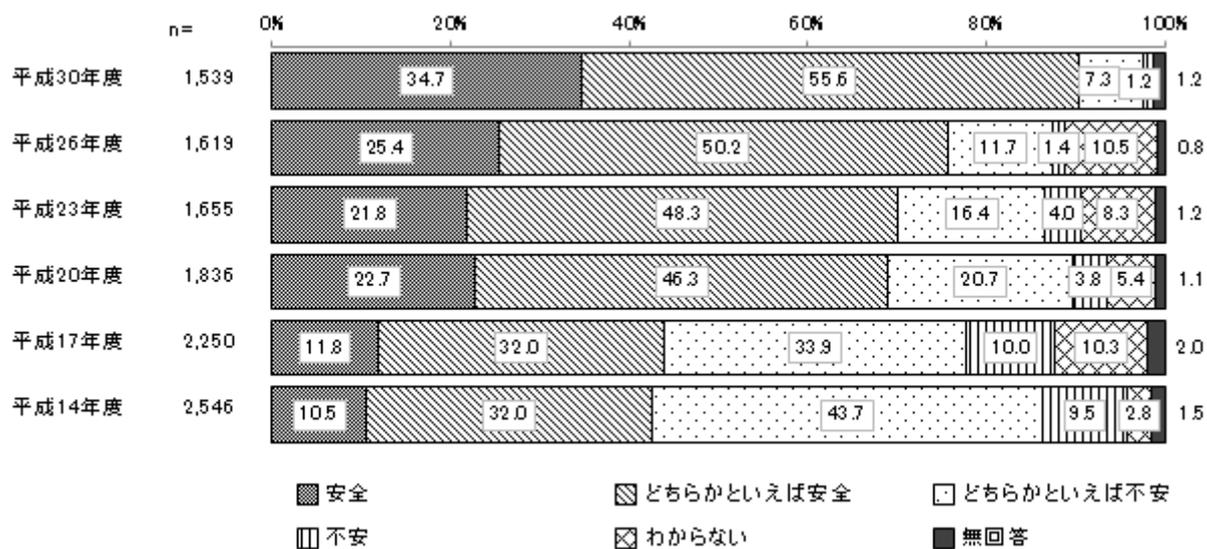
なお、性別・年齢に無回答があったため、男性と女性の合計は全体とは一致しません。



(3) 90.3%の人が、「水道水を安全」と回答

■ 水道水の安全性（単一選択）

水道水を安全だと感じている割合は、平成 20 年度以降増加しており、「安全」(34.7%)、「どちらかといえば安全」(55.6%)をあわせた「水道水を安全」と回答した割合は 90.3%（前回結果より 14.7 ポイント増加）でした。

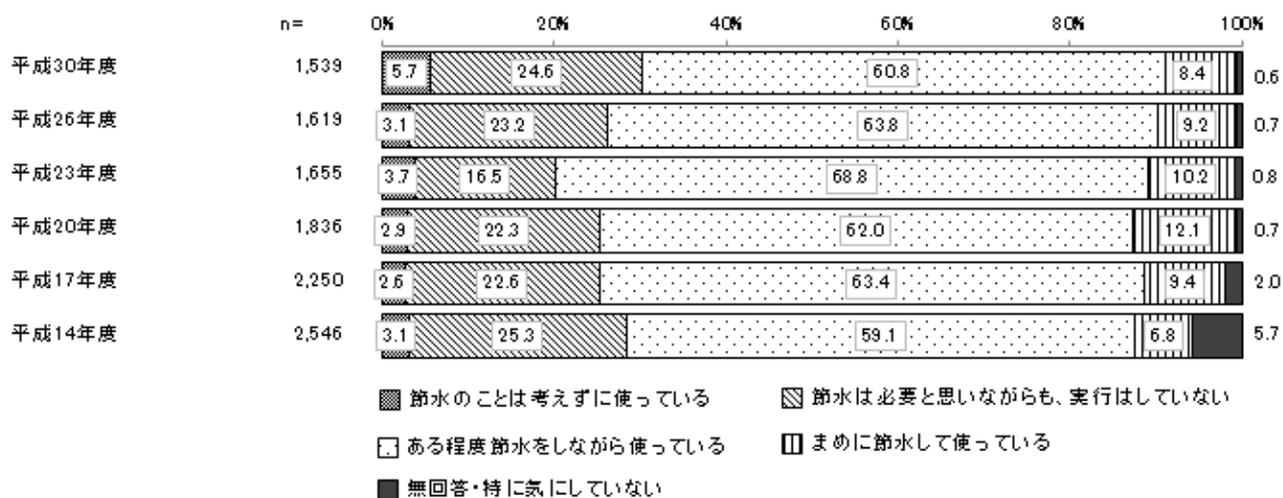


***** 節水意識に関する質問*****

(4) 69.2%の人が、「日頃から節水を意識している」と回答

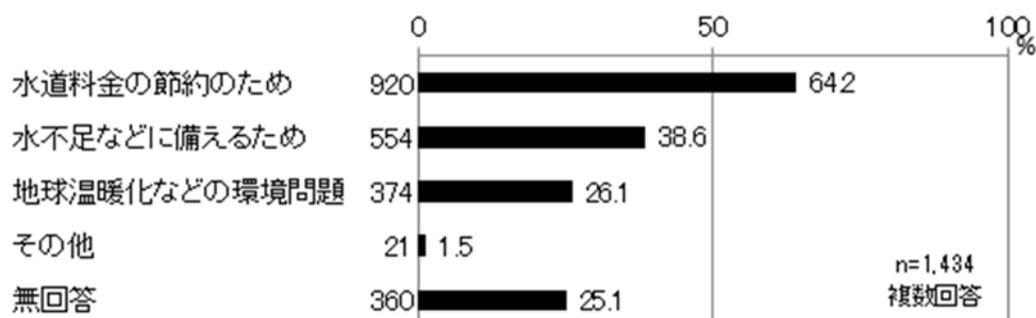
■ 節水意識（単一選択）

節水意識について、「節水は考えずに使っている」（5.7%）、「節水は必要と思いつながら、実行はしていない」（24.6%）をあわせた「節水をしていない」と回答した割合は30.3%（前回結果より4.0ポイント増加）でした。「ある程度節水をしながら使っている」（60.8%）、「まめに節水して使っている」（8.4%）をあわせた「日頃から節水を意識している」と回答した割合は69.2%（前回結果より3.8ポイント減少）でした。



■ 節水に取り組む理由（複数選択）

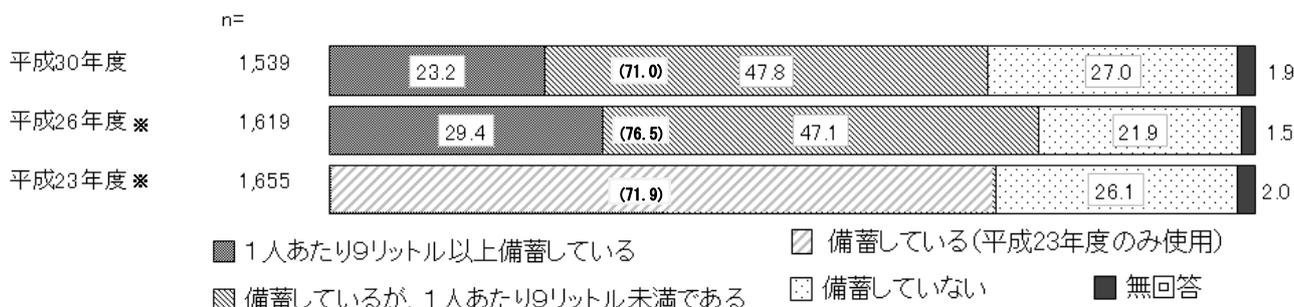
節水の理由について、「水道料金の節約のため」（64.2%）、「水不足などに備えるため」（38.6%）、「地球温暖化などの環境問題のため」（26.1%）の順に選択される割合が高くなっています。



(5) 23.2%の人が、「9リットル以上備蓄している」と回答

■ 災害時の水の備蓄量（単一選択）

飲料水の備蓄量は、「9リットル以上」が23.2%（前回結果6.2ポイント減少）、「9リットル未満」が47.8%（前回結果0.8ポイント増加）をあわせた「備蓄している」が71.0%（前回結果5.5ポイント減少）でした。一方、「備蓄していない」が27.0%（前回結果5.1ポイント増加）でした。

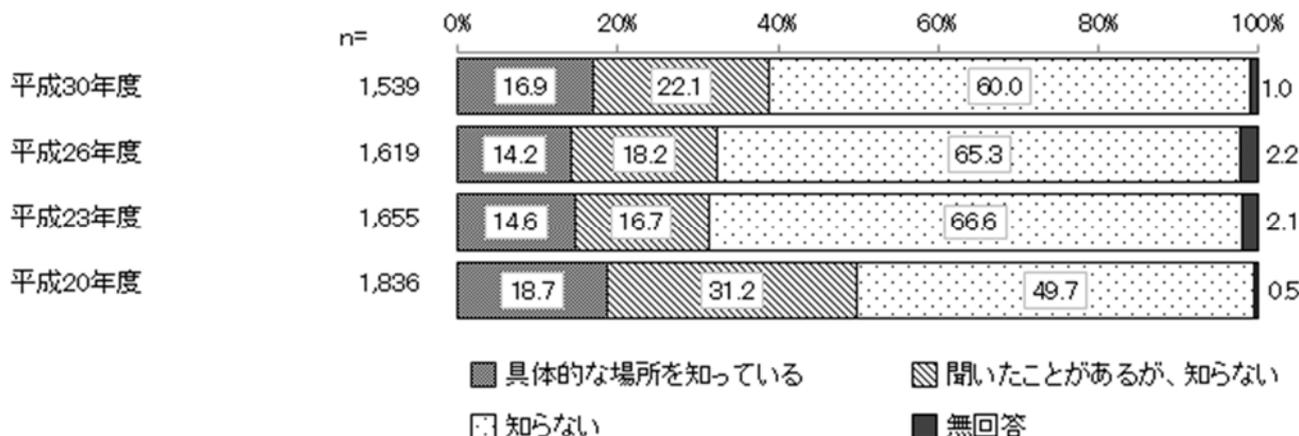


※平成26年度調査の選択項目では、9リットル未満は「6～8リットル程度」、「3～5リットル程度」、「3リットル未満」でした。経年比較を行うため、合算して表示しています。
 平成23年度調査の選択項目では、備蓄「しているか」「していないか」でした。経年比較を行うため、「備蓄している」の回答割合は、(数字)で表示しています。

(6) 16.9%の人が、「災害時給水所を知っている」と回答

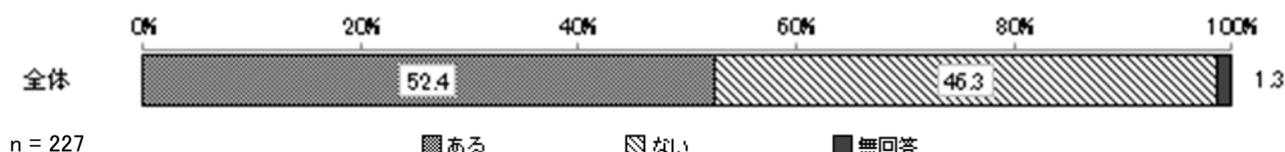
■ 災害時給水所の認知（単一選択）

災害時給水所の認知について、「知らない」(60.0%)、「聞いたことがあるが、知らない」をあわせた「知らない」と回答した割合は82.1%（前回結果より1.4ポイント減少）でした。一方、「具体的な場所を知っている」と回答した割合は16.9%（前回結果より2.7ポイント増加）でした。



■ 「災害時給水所の具体的な場所を知っている」(16.9%)の人の地下給水タンクにおける訓練参加経験（単一選択）

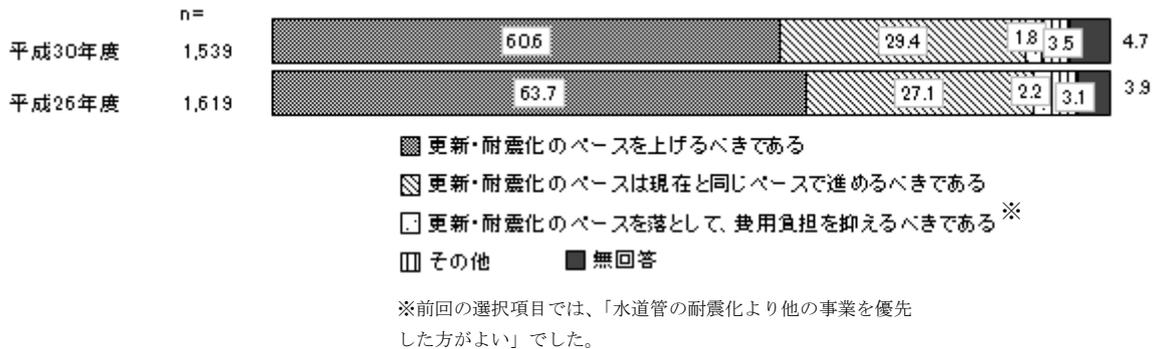
災害用地下給水タンクにおける訓練参加経験について「参加したことがある」(52.4%)、「参加したことはない」(46.3%)となっています。



(7) 60.6%の人が、「水道施設の更新・耐震化のペースを上げるべき」と回答

■ 水道施設の耐震化について（単一選択）

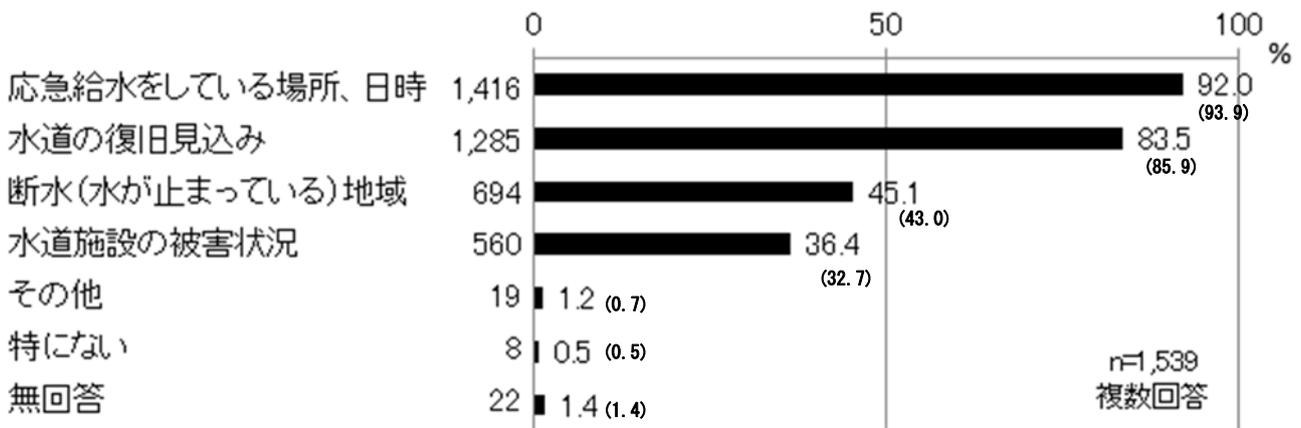
水道施設の耐震化スピードアップについて、「更新・耐震化のペースを上げるべきである」が60.6%（前回結果より3.1ポイント減少）、「更新・耐震化のペースは現在と同じペースで進めるべきである」が29.4%（前回結果より2.3ポイント増加）、「更新・耐震化のペースを落として、費用負担を抑えるべきである」が1.8%（前回結果より0.4ポイント減少）でした。



(8) 震災時に知りたい情報は「応急給水している場所・日時」、「水道の復旧見込み」

■ 震災時に知りたい水の情報について（複数選択）

震災時に知りたい情報について、「応急給水をしている場所・日時」(92.0%)、「水道の復旧見込み」83.5%、「断水地域」(45.1%)の順に選択される割合が高くなっています。



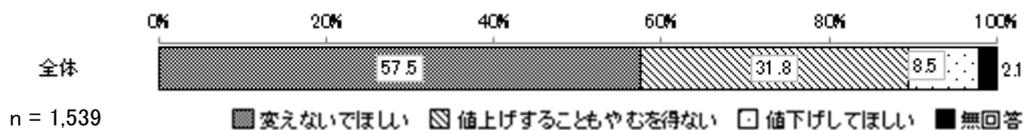
※()内の数字は、平成26年度の調査結果

***** 水道事業に関する質問 *****

(9) 57.5%の人が、「料金を変えないでほしい」と回答

■ 今後の水道料金について（複数選択）

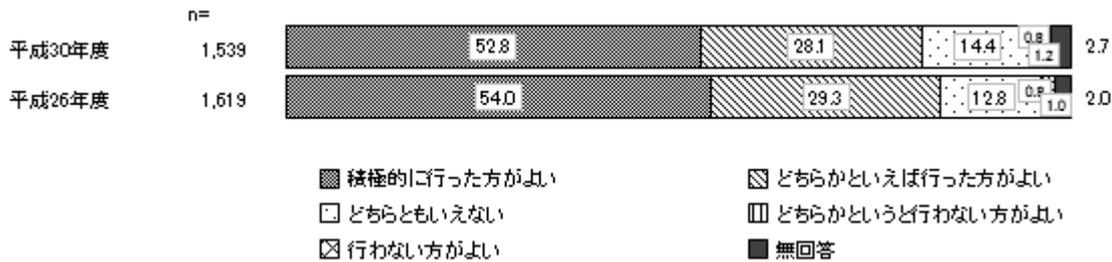
今後の水道料金について、「変えないでほしい」(57.5%)、「値上げすることもやむを得ない」(31.8%)、「値下げしてほしい」(8.5%)の順に選択される割合が高くなっています。



(10) 80.9%の人が、「国際協力・海外水ビジネス展開支援を行った方がよい」と回答

■ 国際協力事業や海外水ビジネス展開支援について（単一選択）

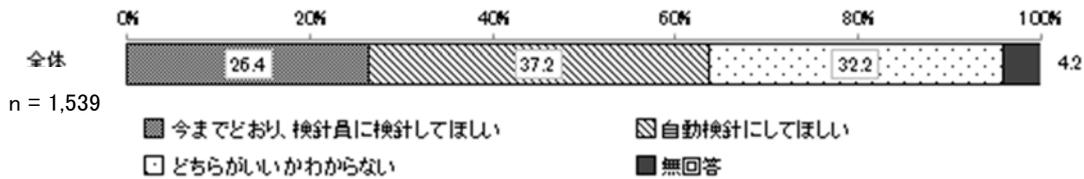
国際協力・海外水ビジネスの取組について、「積極的に行った方がよい」（52.8%）、「どちらかといえば行った方がよい」（28.1%）をあわせた「国際協力・海外水ビジネス展開支援を行った方がよい」は80.9%（前回結果より2.4ポイント減少）でした。一方、「どちらかというも行わない方がよい」（0.8%）、「行わない方がよい」（1.2%）をあわせた「国際協力・海外水ビジネス展開支援を行わない方がよい」は2.0%（前回結果より0.2ポイント増加）でした。



(11) 37.2%の人が、将来的な検針方法について「自動検針にしてほしい」と回答

■ 将来的な水道メーターの検針方法について（単一選択）

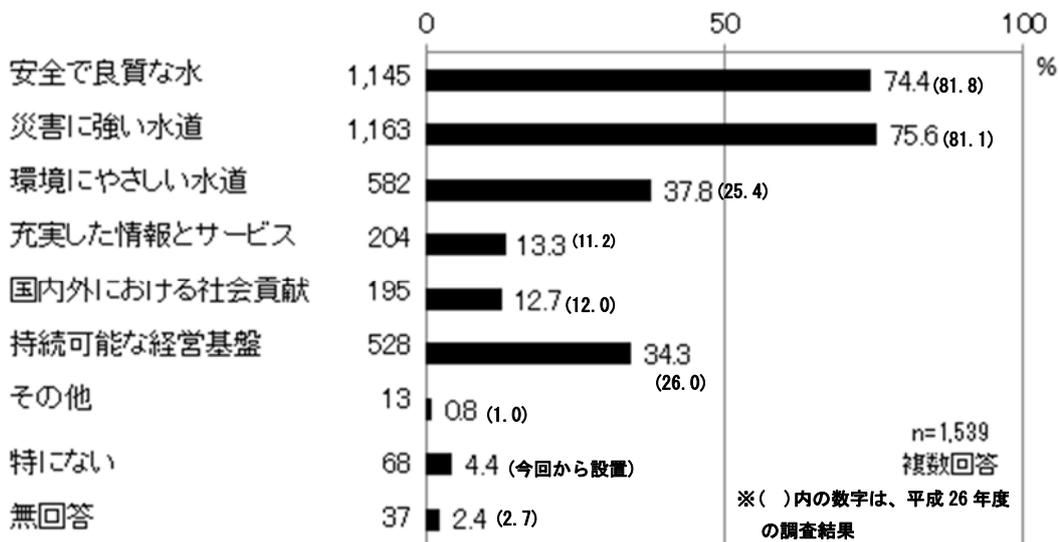
横浜市水道局の将来的な水道の検針方法について、「自動検針にしてほしい」（37.2%）、「どちらが いいかわからない」（32.2%）、「今までどおり、検針員に検針してほしい」（26.4%）の順に選択される割合が高くなっています。



(12) 「大地震など災害に強い水道づくり」と「安全でおいしい水の提供」が最重要取組

■ 今後注力すべき取組（複数選択）

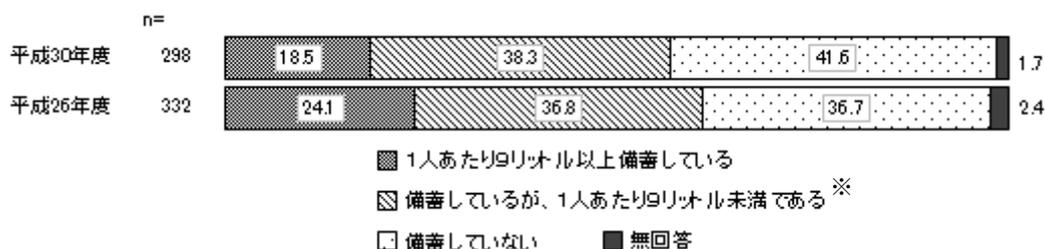
水道局の今後の取組について、「災害に強い水道」（75.6%）、「安全で良質な水」（74.4%）が突出しており、次に「環境にやさしい水道」（37.8%）、「持続可能な経営基盤」（34.3%）の順に選択される割合が高くなっています。



(1) 18.5%の事業所が、「9リットル以上の飲料水を備蓄している」と回答

■ 災害時の水の備蓄量（単一選択）

飲料水の備蓄量は、「9リットル以上」18.5%（前回結果 5.6 ポイント減少）、「9リットル未満[※]」が38.3%（前回結果 1.5 ポイント増加）をあわせた「備蓄している」が56.8%（前回結果 4.1 ポイント減少）でした。一方、「備蓄していない」が41.6%（前回結果 4.9 ポイント増加）でした。

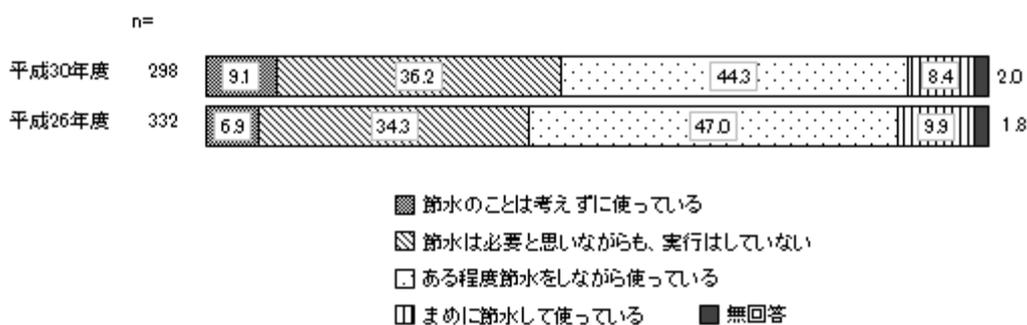


※前回の選択項目では、9リットル未満は「6～8リットル程度」、「3～5リットル程度」、「3リットル未満」でした。経年比較を行うため、合算して表示しています。

(2) 52.7%の事業所が、「日頃から節水を実行している」と回答

■ 節水意識（単一選択）

節水意識について、「節水は考えずに使っている」(9.1%)、「節水は必要と思いつながら、実行はしていない」(36.2%)をあわせた「節水をしていない」と回答した割合は45.3%（前回結果より 4.1 ポイント増加）でした。「ある程度節水をしながら使っている」(44.3%)、「まめに節水して使っている」(8.4%)をあわせた「日頃から節水を意識している」と回答した割合は52.7%（前回結果より 4.2 ポイント減少）でした。



(3) 87.2%の事業所が、「水道水を利用している」と回答

■ 利用している水の種類について（複数選択）

利用している水の用途は、「水道水」が 87.2%（前回結果より 2.0 ポイント減少）、「地下水（井戸水）」が 5.0%（前回結果より 0.8 ポイント増加）、「雨水」が 1.7%（前回結果より 2.2 ポイント減少）でした。

